

「新人類」福祉雑居ムラ

プラットフォーム「でくの望」

片山元治（無茶々園）

無茶々園「天歩塾」は過去10年ほどの間に大なり小なり引き籠もりといわれる「21世紀の新人類」をあまり意識しないままに30名以上受け入れてきた。今回、ニュースタート事務局(*)とのコラボレートで、一定人数を常時受け入れる体制に取り組むこととなった。今、重症者を含めて5~6名の長期受け入れ体験をしている。10月からは15名程度の人数となる予定。

この間、彼らに多くのことを学び感じさせられた。それは本当に新鮮なものだった。

ニート、引き籠もりと称される「21世紀の新人類」の若者達が物質の豊かさよりも心の豊かさを求める新しいタイプの人類であるような気がします。すでに世の中は彼らの時代に入らざるを得なくなっているが、まだ市民権を得るにはいたっていない。当面は20世紀型の社会復帰をさせる必要があるのだろう。

しばらくは人間として世の中には受け入れられない時代が続くのかも知れない。有名なUFO研究家の清家宇宙研究所所長の清家先

生は宇宙人は殺し合いや喧嘩をしないみんな仲よしという。私が推測するに彼らは清家先生の言う宇宙人により近い「21世紀の新人類」なのだ。彼等は言い訳はするが、うそはつかない、喧嘩もしない。彼等は、いろいろな愛に少し飢えている。優しい性格が、競争社会に馴染まず、心を閉ざしているように思える。体が現代の競争社会にアレルギー反応を起しているのだろう。それにしても彼らと付き合っ、一人前でありながら乳離れできずにいるもどかしさはいつも残る。

かつて、田舎は、農という生業で成り立っていた。今その田舎がグローバル化、高齢化の中で日本中から消えようとしている。兎追いし、小鮎釣し故郷を絶滅させても良いものだろうか。無茶々園は作る人食べる人を超えて都市生活者の故郷、「21世紀の新人類」達の心の癒し場所にならんことを望んで、新しいタイプの農場を目指して頑張ろうと思っています。その名はプラットフォーム「でくの望」

取りあえず、彼らと暮らしてみ、引き籠

もりにいろいろなタイプがあること、個性豊かであることが分かりました。薬漬けや、心を閉鎖させられた状態が長かったり、症状の進行に格差があります。その辺をゆっくり観察し、我々なりの対応をしていきたいと思っています。21世紀新人類達の福祉雑居ムラ、プラットフォーム「でくの望」がスタートしました。

当農場では4つのプロセスに分けて対応したいと思っています。

第 課程・・・生活習慣を整え、心を開く愛の注入期(1～3ヶ月間)

- ・早ね早起きのリズムに慣らす
- ・太陽の光を直接浴びる
- ・玄米正食を中心とする
- ・各人が自分の心を整え、協同生活ルールを理解し実行できるようになる努力をする
- ・各人の加作作り

第 課程・・・労働が出来るようになるための愛の厳しさを知る時期(2～6ヶ月間)

- ・少し無理をして作業を行う訓練
- ・よく話し合い、共に作業をすることで心を開く
- ・8時間作業が出来るように努力する

第 課程・・・自分を生かせる仕事探し、仕事起こし。多くのニュースタート支援会員による仕事支援(6ヶ月以降)

- ・自分の引き籠もりタイプを認識しながら自分にあった仕事を探す
- ・地域の人達と一緒に自分たちの個性にあった事業を起す。

第 課程・・・再引き籠もり場所の確保(卒業後)

- ・再度引き籠もりたくなった場合、親に頼らず、安心して引き籠もれる場所作りつまり、福祉雑居ムラ作りです。

彼らが来たおかげで楽しいのか厳しいのか分からない日が続いております。日々、目の色が変わり、心を開いてくれる実感が私達の気分を複雑な快感にさせているのではないのでしょうか。ヒョットしたらもう、私達も彼らと同様「21世紀の新人類」になったのかも知れません。無茶々園型のニュースタートの始まりです。まだ、担当を決めてませんが、出来るだけ早く取材記者を作って写真入でメール報告できるようにしたいと思っています。

今後のニュースタート事業への無茶々園の方向

スタッフ2人規模相当の人数を受け入れて、常時2人スタッフ体制を取れるようにする。

当園スタッフは准スタッフの役割をするわけだから、専従スタッフの1人はスタッフの仕事は抜けることが可能と思われる。

本格的にこの事業を受け入れるとすれば、専従スタッフの一人は、四国事務局体を制作り、県内の二ートの掘り起こし、仕事起こしに取り組むことの出来る人材を雇用する。

県内の二ートを対象にすることで「家族をひらいた」後の暮らしとのかかわりが出来、家族ケアの実験が出来る。

農業福祉、食農教育、岡の上の農産物直販所、岡の上のレストラン等の計画を考え、松山市内の消費者等の連帯を深める体制を

急ごうと思っている。

プラットフォーム「でくの望」は日々多くの人が集える農場として、彼らと一般人との接点を多く作りたい
常時研修生を受け入れるとすれば、社会復帰を目指す研修生の仕事体験も出来るようにしたり、彼らの仕事お起こしを松山市内の市民と共に協力できる体制も作りたい。

スローな働き方、介護福祉もまた、スローな働き場所です。我が福祉雑居ムラはお金の為に働くのではなく、人生を人間らしく生きていく宮沢賢治の言う「デクノボウ」を目指しお互い支えあって生きる協同労働の福祉雑居ムラを目指しています。

紙面を借りまして、スタッフを募集します。農業をしながら、ニートと呼ばれる若者達と、スローな介護事業をやりたい人、彼らと一緒にスローな仕事起こしをやりたい人。給与は「でくの望」赤字続きで最低賃金程しか払えませんが、使うことがないので都市よりも残ると思います。食住施設完備。

2005年8月9日

(*)NPO ニュースタート事務局

不登校や引きこもり、ニートの若者の再出発を支援することを目的として設立（代表＝二神能基）。「家族をひらく」をモットーに、『訪問部隊』『若衆宿』『仕事体験塾』という流れで、「家族」から「社会」への道筋をつくり、引きこもり問題、ニート問題の解決に当たる。日本国内はもとより、海外にも「福祉雑居村」をつくる活動を広げている。